

# 平成 23年度 1 級土木施工管理技士実地試験

## 〔総 評〕



「安全管理」という課題は容易に見えるが、指定した事項を記述できたかどうかの結果を左右する。

### 経験記述問題について

経験記述については、平成 18年度以降、受験会場において、指定した課題に対しての記述の対応をみる試験に変化しているが、今年の指定は安全管理であった。

指定課題が安全管理という事から、比較的記述し易かったであろうと思われるが、

「但し交通誘導員の配置による安全管理を除く」と但し書きがつき、さらにこれまでは「特に留意した技術的課題」という指定が「具体的な現場状況と特に留意した技術的課題」という指定に変わり、より具体的な現場状況の記述が求められ、記述欄の行数がこれまでの 7 行から 9 行に増えた。

また、課題解決のために検討した内容の記述欄では、検討した項目と検討理由及び検討内容という指定に変わり、現場の状況との関連の説明や、これまでの試験と同様試験会場での記述の対応を求めるものとなった。

本年度の試験も昨年度と同様、「設問 2 の内容が無記載又は設問で求められている内容以外の場合、問題 2 以降は採点の対象となりません。」と指定されていたことから、安全管理という課題そのものは記述しやすくとも、指定した事項を記述できたかどうかの結果を左右することになると思う。

### 選択問題について

先ず問題形式であるが、設問 1 が穴埋め問題や文章の正誤判定と訂正の形式、設問 2 が文章での記述説明を求める問題で、例年どおりのオーソドックスな出題形式であった。

新規問題としては、問題 4 のコンクリートの非破壊検査や問題 6 のボックスカルバートの布設における使用機械と内容の記述についての出題があったが、ボックスカルバートの布設の問題は、きわめて簡単な問題であったと思われる。

また、設問 2 の文章での記述説明を求める問題についても、特に目新しい問題はなく、内容的にはこれまでの過去問題と同類の内容であり、今年度の試験は、総じて記述し易い問題となった。

(文責 技術検定研修協会教務部)